

The British Library- 21世紀に貢献する図書館

British Library
Barry Smith



40年以上の長きにわたり、British Library (以下BL) は世界でも有数のドキュメント・サプライヤーとして、国際的な大図書館も含む2万以上の顧客にサービスを展開してきました。世界最大かつ最も多様な研究資料のコレクション(現在は1億5千万点以上)を所蔵する我々は、一般的なものから入手困難なものまで幅広く資料を提供できます。しかし、いま我々にとって極めて重要な課題は、研究情報が生み出され、流通し、参照される方法が技術の進歩を通じて規定しなおされる時代にあつて、いかにそれに適応し続けるかということです。

「Google世代」に適応し続ける英国

BLは世界が誇る図書館の一つであり、英国のみならず世界の研究活動を支援する上で非常に重要な役割を果たしています。あらゆるレベルの研究を支援することが我々のミッションなのですが、これを実現するにあたって先述の諸変化を全て受け入れることが、BL自体の急速な変化をもたらしたのです。BLならびにJISC(情報システム合同委員会)の委託により、「未来の研究者の情報行動」に関する研究が最近行われましたが(注)、これを通じて、大学生の89%は研究を始めるにあたって検索エンジン、特

にGoogleを利用しており、さらにその経験を「ほとんど申し分なし」と表現していることが明らかになりました。この背景には、物理的な図書館の存在よりも検索エンジンの方が彼らのライフスタイルに適合しているということがあります。そして、この検索エンジンの登場により、すぐに要望に応え、「クリック一つで」いつでもどこでもアクセスできて答えを得られることが図書館のサービスにおいても標準であるべきだという期待が、世界中で高まったのです。

検索エンジンは、将来に向けたBLの戦略に対し非常に大きなインパクトをもたらしました。しかし、検索エンジンだけではありません。BLが研究資料の提供元として活動していくにあたっては、さらに2つの最近の発展、すなわちブロードバンドとWeb 2.0型技術の普及が同様に大きなインパクトを及ぼしたのです。

今までは違うインターネット

わずか数年前まで、インターネットの利用は受動的なものであり、ウェブ上のページや文書を眺めるに過ぎませんでした。ところがブロードバンドが広く導入されるに及び、現在では音や動画といった豊かなコンテンツが要求されています。

さらにFacebookやYouTubeなどのサービスはWeb 2.0革命を加速させ、いまやウェブに新たに加えられるべくコンテンツの大半はエンドユーザー自身が生み出すという形で、その生成の方法を急激に変化させています。これらの展開は、ユーザーの要求を満たすという点において、図書館に課題をもたらしました。従来とは異なる形態のものが求められ、ブログやウィキあるいはソーシャル・ネットワークやウェブのサイトのように従来とは異なる経路で、しかも非常に素早く研究が発表される(そして消えていく)環境の中で、我々はいかにそれに適合していけばいいのか、という課題です。

21世紀に貢献する図書館の定義

これまで以上に厳しい課題を前にしていることはBLのような国立図書館においてとりわけ顕著なものです。我々はいかにこれらの課題にどのように対応していけばいいのでしょうか。激しく推移するこのデジタル時代にあつて適応し続ける唯一の道、それはこれらの変化を真剣に受け止め、必死になつてユーザーのニーズを理解し応えていこうとすることに尽きるのです。その一例として、最近BLは

Google Scholarと連携し、顧客がGoogle Scholarの検索結果から直接BLのドキュメント・サプライ・サービスにフルテキストを発注できるようにしました。さらに我々は、BLに所蔵されていないが、インターネット上ではこれまでほとんど提供されていなかった資料の多くを初めてウェブ上で公開するに至っています。その中には、ガンジーやフローレンス・ナイチンゲールといった近現代の重要人物の演説などから成る教育的な音源のポータル Archival Sound Onlineも含まれます。また2007年には、録音記録その他の資料により英国における方言の発展を研究するウェブサイトを開設したり、19世紀の英国における重要な全国紙や地方紙を初めてウェブ上で閲覧できるようにしました。

BLのウェブサイト (<http://www.bl.uk>) では、さらに多くの事例を参照することが出来ます。インターネットのユーザーが膨大なコンテンツにアクセスでき、GoogleやMicrosoftといった企業が進めている大規模なデジタル化のプロジェクトを通じて、こうしたコンテンツの量がさらに増え続けている今日、BLはその過程の中で重要な役割を果たします。規模と多様性において比肩しうるものがない蔵書を持つBLの目標は、これまでアクセスできなかった資料類を誰もが必要ときに利用できるようにすることです。これこそが21世紀の図書館なのです。

Mr. Barry Smith : British Library シニア・マーケティング・マネージャー。世界全域に対するBritish Libraryのドキュメント提供サービス全般のマーケティングを統括。(訳 大熊高明)

注：CIBERとの共同作業を通じて行われた。研究結果は <http://www.bl.uk/news/2008/pressrelease20080116.html> をリンク先で閲覧可能。